

稲畑産業株式会社 2022年3月期第2四半期決算 オンライン決算説明会 質疑応答要旨

日時 : 2021年12月2日(木) 13:00~14:00

説明者 : 稲畑社長

【2022年3月期見通し】

Q : 2022年3月期見通しについて、2021年8月公表の通期見通しに対して、営業利益、経常利益とも70%程度の進捗である。第2四半期時点で見通しの上方修正を行っていないが、通期達成に向けて懸念材料はあるか？

A : 既に第1四半期(8月)公表で、利益面は上方修正を実施した。その予想を少し上回る状況で推移している。下期の懸念材料について、半導体不足によるサプライチェーンへの影響が大きく出るため、特に自動車関連について、生産数量の見直しをせざるを得ない。自動車メーカーは3Q、4Qに回復させていき、通期は計画通りの生産台数としたいと表明しているが、現状は綱渡りの状況であると思う。また、全体として、物流関係の乱れから、世界的に材料が重複発注されており、流通在庫も積み増しされている状況だと考えている。その反動が下期に出ることを懸念している。前期から続いていた在宅需要・巣ごもり需要も一巡したので、その需要は減少するだろう。それに加え、新型コロナウイルスの感染状況は、11月までの段階で、日本は非常に収まった状況で、経済活動の再開が期待されたが、下期に向けては、オミクロン株が発生し、再び不透明感が増している。とはいえ、利益の進捗が7割まで来たところがそこまで落ちないだろうとご質問者が考えられているように、基本的には私も同じような感覚を持っているが、現時点では見通しが難しい。3Qあたりまで来れば、見通しが正確にできる状態になると思うので、その段階で必要に応じて速やかに公表を行っていきたい。

【株主還元】

Q : 2022年3月通期見通しの当期純利益は160億円だが、還元方針は総還元性向30-35%なので、増配か自己株式取得をする可能性があるのか？

A : NC2023の期間中、一株当たりの配当金を減配しないという、いわゆる累進配当の方針を公表している。併せて、総還元性向30-35%を目安とすることも従来通り引き継いでいる。期末の配当については、通期の業績次第のため、現時点では40円を予定している

こと以上は、申し上げられない。累進配当導入と総還元性向、またその中で自己株式の取得も併せて機動的に実施する方針なので、この3点を踏まえた上で、何とか株主の皆様のご期待に応えていきたい。

【中期経営計画 NC2023】

Q：NC2023について、最終年度である2024年3月期の当期純利益の目標が160億円だが、2022年3月期見通しが160億円である。初年度で目標値を達成した場合、目標値の見直しはするのか？

A：2022年3月期の業績見通しについて、コロナ禍からの急回復や政策保有株式の売却が上期に集中したこと等があり、上期の実績は通常のレベルではないと思っている。それらを含めた上で、見直しを図っていく可能性はあると思うが、現在のところは、まだ具体的に検討していない。ご指摘のとおり、目標を達成してしまったら、その先はどうするのかということについては、引き続き検討を進めたいと思う。

【コンパウンド設備投資】

Q：前回の決算説明会で、フィリピンのコンパウンド工場増強を計画していたが、その進捗状況はどうか？中期計画説明資料の30頁にあるフィリピン拠点の今期販売量が16,800トンで、生産能力の10,800トン/年を大きく上回る見通しだが、どう理解したらよいか？他のコンパウンド拠点で、新設・増設の計画はあるか？

A：生産能力について、当社の場合は、いわゆる押出ペレットの数量で換算している。例えばフィリピン工場では、「マスターバッチブレンド」といって、顔料濃度の高いマスターバッチをナチュラルペレットと混ぜて販売するものもある。販売量としては、ナチュラルペレットも含むため16,800トンとなるが、実際の押出数量そのものは、それより小さい10,800トンということである。フィリピン工場について、今期はまだ増設していないが、稼働率が高まっている状況なので、増設の検討はしていると思う。フィリピン以外のコンパウンド拠点での増設計画について、メキシコのコンパウンド拠点は、コロナ禍の影響を受けている。今期、北米の自動車生産はコロナや半導体不足の影響を受けて、生産計画が大幅な見直しとなっており、当社のメキシコ工場もよくないが、来期に回復してくれば、生産能力が足りなくなるので、1ラインの増設を検討している。場合によっては、来年度中に間に合うかわからないが、もう1ライン増設する可能性も十分あると思う。